

比較による日本の近世フランス史学のための 基盤的研究：語彙をめぐる検討から

高澤, 紀恵 / TAKAZAWA, Norie

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

科学研究費助成事業 研究成果報告書

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

9

(発行年 / Year)

2021-06-15

令和 3 年 6 月 15 日現在

機関番号：32675

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K03189

研究課題名(和文) 比較による日本の近世フランス史学のための基盤的研究—語彙をめぐる検討から

研究課題名(英文) An essential study of French Early Modern History in Japan: Comparative analysis on keywords

研究代表者

高澤 紀恵 (Takazawa, Norie)

法政大学・文学部・教授

研究者番号：80187947

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、翻訳の問題発見機能を利用してフランス絶対主義を理解するための鍵語彙の析出を行い、それらを糸口に絶対主義像の深化を試みた。具体的には、日本とフランスで近世フランス研究を行ってきた高澤紀恵(代表者) 芹生尚子(分担者)を中心に、七名の研究者(林田伸一、森村敏己、佐々木真、正本忍、小山啓子、竹下和亮、松本礼子)を協力者として、ファニー・コザンデ、ロベール・デンモン『フランス絶対主義 歴史と史学史』の共訳を行い、絶対主義の史学史的整理とともにグロッサリーの基礎となる訳語を確定することが出来た。この訳書は、語彙をめぐるコラムと協働討議の成果である解題とともに、2021年に刊行した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、フランス絶対主義を対象に、エティックとエミックの二つのアプローチを駆使して理論と実践の双方から史学史を明らかにする研究方法を提示することで、今後の比較研究の基盤を提供しえた。加えて、このプロセスで見出された鍵語彙の分析から、フランス絶対主義の歴史的特質の理解を新たに示した。その成果の刊行は、明治以降、「専政」と「絶対主義」を同一視してきた日本語世界に少なからぬ学術的・社会的貢献となった。

研究成果の概要(英文)：This research aims to deepen understanding of French Absolutism in utilizing the problem-finding function of translation. We collaborate with seven specialists of Early modern French history in Japan (Shinichi Hayashida, Toshimi Morimura, Makoto Sasaki, Shinobu Masamoto, Keiko Koyama, Kazuaki Takeshita Reiko Matumoto) to translate “L’Absolutisme en France, Histoire et historiographie.” This collaboration contributed to review historiography on Absolutism and determine the essential translation words for glossary. In April of 2021, we published the translation with columns on some keywords and a lengthy commentary; that resulted from cooperative work.

研究分野：西洋史学

キーワード：近世フランス 絶対主義 翻訳

1. 研究開始当初の背景

本申請には3つの背景がある。ひとつ目は、申請者が2006年以来行ってきた日仏の研究交流である。日本のフランス史家である申請者は、日本の日本史家とともに、フランスの日本史家とフランス史家の間で研究成果を交差させる双方向的な対話を重ねてきた。専門的知見に裏打ちされた緻密な翻訳に携わるなかで、翻訳のもつ問題発見機能に着目するようになった。二つ目に、実証研究が精緻化されるあまり、フランス史研究者同士においても大きな布置関係のなかにそれぞれの研究を位置づけることが困難になりつつある、という状況への危機感である。つまりは、共通の研究基盤の構築が必要となっている状況が第二の背景である。三つ目は、欧米の研究をモデルとし追従する段階から脱し、日本語世界から独創的な西洋史像を発信する動きが起こりつつあることが、本研究を後押しする第三の背景である。

2. 研究の目的

本研究は、三つの目的を掲げた。第一は、言葉のエティックとエミックの差異に留意しつつ、日仏近世史のグロッサリーを日本のフランス史、フランスの日本史研究者の連携によって作成することである。第二に、協働と討議を柱とする翻訳のアトリエを設け、近世社会研究において日本語とフランス語の間でとりわけ翻訳が困難な語彙を析出・分析することである。翻訳困難性を孕んだこうした語彙こそ、異なる社会の特質に迫る重要な鍵がある、という意味で鍵語彙と名づけ、その理由を明らかにする。第三に、これらの日本側の営為を日仏の日本史家、フランス史家にフィードバックすることで日仏近世社会研究の基盤を堅固なものにすることである。

3. 研究の方法

上述の目的を実現するために、申請者と分担者に加えて、七名のフランス史研究者(林田伸一、佐々木真、森村敏己、正本忍、小山啓子、竹下和亮、松本礼子)を協力者としたチームを作り、ファニー・コザンデ、ロベール・デシモン著『フランス絶対主義—歴史と史学史』の翻訳を行う。この書は、これまでの絶対主義研究の史学史を網羅し、一次史料を含めて多くの研究を引用する、というユニークなモンタージュ的手法で構成されているため、思想史や神学を含む該博な知識を必要とする。幸い、協力者はいずれも第一線で活躍するフランス・アンシアン・レジームの研究者でありつつ、各人の研究対象は重ならないため、それぞれの知見を持ち寄って翻訳を進め、かつ鍵語彙を析出することが可能となる。共訳のプロセスで訳語を確定しつつ、グロッサリー作成を進めた。翻訳に際しては、担当、副担当を決めるが、訳文は全員参加の研究会で仔細に検討し、鍵語彙を析出した上で、これらを糸口に絶対主義像を再検討する。

4. 研究成果

本研究は、申請時には2017年から2019年までの3カ年計画であった。しかし、2019年度末に起こった新型コロナウイルスによる世界的パンデミックによって、研究計画に支障を

きたしたため、2020 年度末までの延長を申請し、結果として四年間の研究プロジェクトとなった。当初は、日本史研究者も含んだ日仏ワークショップを予定していたが、前述の事情で断念せざるを得なかった。

しかし、申請者、分担者、協力者が一丸となって取り組んできた『フランス絶対主義—歴史と史学史』は 2021 年 4 月に岩波書店から刊行することができた。翻訳書には、原書にはない日本語版序文、鍵語彙をめぐるコラム、詳細な訳者解説、法諺リスト、索引が付されているが、そこには本プロジェクトの成果が注ぎ込まれている。とくに次の二点を挙げておきたい。

(1) 鍵語彙をめぐる考察 :

absolu (高澤)、constitution (竹下)、moderne (小山)、office (松本)、ordinaire-extraordinaire (佐々木)、conseil (正本)、Parlement (芹生)、corps (竹下)、moderation/modéré (森村) といった絶対主義を理解する上で重要な語彙を析出し、日本語世界からこの概念が提起する問題系をメンバーが考察した。

(2) 方法をめぐる考察 :

頻繁に開いた翻訳アトリエでの長時間におよぶ議論の成果は、「訳者解説」に申請者がまとめた。具体的には、従来絶対主義研究が陥った隘路を乗り越えるためにコザンデ、デシモンがとった「理論的構築」と「実践的構築」を一端分けて議論を整理し、かつ両者を交差させる方法をはじめ、今後の研究の指針となる点を五点明示することができた。これらは、今後の日仏近世史の基盤となるのみならず、広く国制史研究に資するものと思われる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 芹生尚子、小田原琳（共編）	4. 巻 21
2. 論文標題 小特集「統治の実践と植民地 - フランス領フランス島（現モーリシャス島）とイタリア領アビシニア（現エチオピア）の事例を通じて」：解題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 クアドランテ	6. 最初と最後の頁 139-144
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15026/93324	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 芹生尚子	4. 巻 5
2. 論文標題 18世紀後半フランスにおける脱走兵の処罰をめぐる論争と改革	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 エモーション・スタディーズ	6. 最初と最後の頁 135-144
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Naoko Seriu & Rin Odawara	4. 巻 23
2. 論文標題 Introduction: War, Violence and Gender in a Global Perspective: Memories and Representations in the Cases of the Algerian War, South Korean 'Comfort Women' and the Bosnian 'Mothers of Srebrenica	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 クアドランテ	6. 最初と最後の頁 73-76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 芹生尚子	4. 巻 46
2. 論文標題 ルイ・セバスチャン・メルシエ「戦争について-夢-」翻訳・解題(1)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ふらんぼー = Flambeau	6. 最初と最後の頁 197 -205
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高澤紀恵	4. 巻 1163
2. 論文標題 特集 ナショナル・ヒストリー再考にあたって	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 12-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計11件 (うち招待講演 8件 / うち国際学会 6件)

1. 発表者名 芹生尚子
2. 発表標題 啓蒙の世紀における軍隊の影で-平和と改革の時代にフランス軍を脱走した兵士たちの記録が問いかけるもの-
3. 学会等名 日仏歴史学会 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高澤紀恵
2. 発表標題 「向こう岸のジャコバンへのコメント」
3. 学会等名 日本西洋史学会 (静岡大学)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高澤紀恵
2. 発表標題 「ヴォーリスとICU - - 一九五〇年代の挑戦」
3. 学会等名 第一三回ヴォーリス建築文化全国ネットワーク in Tokyo (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高澤紀恵
2. 発表標題 「京都・社会史・アソシエーション - 「近社研」の挑戦」
3. 学会等名 『越境する歴史家たちへ』合評会（京都大学）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高澤紀恵
2. 発表標題 「討論：諸国民の世界史のために」
3. 学会等名 フランス国立日本研究所・日仏会館共催シンポジウム（日仏会館）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高澤紀恵
2. 発表標題 "ここ"の歴史へ 趣旨説明
3. 学会等名 "ここ"の歴史へ 幻のジェットエンジン、語る
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Naoko Seriu
2. 発表標題 La memoire difficile d'une bataille perdue
3. 学会等名 The Battlefield after the Battle, Memoires and Uses（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Naoko Seriu
2. 発表標題 War, Gender and Law in the 18th Century French Literature
3. 学会等名 War, Violence and Gender in Global Perspective (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高澤紀恵 / ギヨーム・カレ (共同)
2. 発表標題 問題提起ー身分制社会における身分と周縁 16～19世紀における日本とフランス
3. 学会等名 JSPS-CNRS日仏シンポジウム「身分制社会における身分と周縁 16～19世紀における日本とフランス」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Naoko Seriu
2. 発表標題 In the shadow of the Army in the Age of Enlightenment: Soldiers' Suffering in Peacetime
3. 学会等名 Gender, Emotion, and the Art of War: The Military and Morality in the Eighteenth Century and French Revolution (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 芹生尚子
2. 発表標題 改革期の軍隊における「知」のかたち アンシアン・レジーム末期の将校、兵士、脱走兵
3. 学会等名 JSPS-CNRS日仏シンポジウム「身分制社会における身分と周縁 16～19世紀における日本とフランス」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 フランス絶対主義研究会	4. 発行年 2021年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 354
3. 書名 フランス絶対主義 - - 歴史と史学史 - -	

1. 著者名 Naoko Seriu (分担執筆)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Centre d' Histoire Judiciaire de Lille	5. 総ページ数 465 pages (分担135-145)
3. 書名 Gouvernance, justice et sante	

1. 著者名 高澤紀恵・山崎鯛介	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 i-xix, 219ページ
3. 書名 建築家ヴォーリズの「夢」ー戦後民主主義・大学・キャンパス	

1. 著者名 福井憲彦編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 担当頁 171 - 206頁
3. 書名 対立する国家と学問 危機に立ち向かう人文社会科学 分担執筆「歴史学になにができるのか - - 交差する日仏近世史の現場から」	

1. 著者名 歴史学研究会編	4. 発行年 2017年
2. 出版社 績文堂出版	5. 総ページ数 担当頁 130 - 146頁
3. 書名 第四次 現代歴史学の成果と課題2 世界史像の再構築 分担執筆「社会統合と政治文化 近世・近代ヨーロッパ」	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	芹生 尚子 (SERIU Naoko) (70783702)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・准教授 (12603)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------